

指導目標を具体化する

- (1年間の指導目標しか立てていない場合) 学期間等の短期的な目標も設定してみましょう。

自立活動の指導の効果を高めるためには、学期間等の短期的な指導目標を定める必要があります。目標がより具体的になるので、自立活動の時間における学習活動の内容もイメージしやすくなります。また、計画的な指導にもつながります。

例：自閉症のある子供で、他者とのコミュニケーションを苦手としている。

- 1年間の指導目標
 - 一方向的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話すことができる。
- 1学期の指導目標
 - 日記を参考にしながら、最近の出来事について、いつ、どこで、何をしたかを順番に話すことができる。

目標達成に向けて活動のバリエーションを増やす

- 同じような活動内容を続ける場合、実態に合わせて教材等を替えたり、その時間の目標や支援の手立てを段階的に設定したりしましょう。

自立活動の時間における指導では、「明日も先週と同じ活動内容でいいのかなあ」「そろそろ飽きてきたかなあ」「でも別な良い活動が思い付かないなあ」というように迷う日が少なからずあると思います。焦って、全く別な活動を取り入れても、それが指導目標にあまり関係のない活動であれば本末転倒です。こういうときは、少し落ち着いて、同じような活動内容でよいので、活動の流れや教材に変化を加えたり、本時の目標や指導・支援の手立てを段階的に設定したりすることで、活動のバリエーションを増やしていきましょう。

例：ADHDの子供を対象としたコミュニケーションスキルの指導

- コミュニケーションの場面設定を変えてみる
- ロールプレイをする相手を代えてみる
- 目標とするスキルを増やしてみる
- 教師によるヒントやモデル提示を減らしてみる など

よく一緒に読まれているQ

Q9 「自立活動の指導目標は、どうやって決めればよいのですか？」

Q10 「自立活動の時間は、学級の子供全員に同じ活動内容で集団指導してもよいのでしょうか？」

Q18 「子供の実態に応じた教材・教具になっているか自信がありません。」